世の中の動きが急な現代。
その中で企業を生き残らせるために、一番の学び手であることを問われるのが「社長」。
大量の書物から経営のヒントを探す苦労もあるだろう。
そんな社長の陰の努力を助ける「社長の本棚」がここにある。
今月も社長の仕事に役立つビジネス書を本棚に加えよう。

地域ブランド戦略

違う視点に立てば 思わぬタカラが見つかる

新しい地域活性化の取り組みが全国各地で始まっている。たとえば、三重県で行われているのは「ジビエ」の活用。ジビエとはフランス語で、食材として狩猟された野生の鳥獣やその肉のこと。農村部では猪や鹿などの野生動物による農産物被害が深刻化。これまで害獣対策といえば畑の周囲に電気柵を張り巡らせ、近寄らせないようにするくらいしかなかった。しかし、三重県では発想を180度転換、猪や鹿を食材として活用し、新しい地域ブランドに育てようとしている。

日本では、馴染みの薄い「ジビエ」だが、フランスやイタリアでは一つの文化として定着している。三重県は、品質・衛生管理マニュアルを作成。解体場所からスーパー、レストラン、料理店までの流れを作り、シビエを地域の文化に育てるべく活動をしている。

このように、もともとその地域にありながら見過ごされていたものを新たな視点で見直し、経済活動や観光の目玉に育てようという試みが全国で活発化している。そんな実例を紹介しながら、地域活性化のポイントを分かりやすく解説している本書。地域資源の活用を考える上で必読書だ。

タカラは足元にあり！ 地方経済活性化戦略

●金丸弘美／合同出版／定価1600円＋税／2016年2月

人材開発＆組織論

働き方革命を望む 全ての経営者必読の一冊

長時間労働、女性活躍推進、人手不足など、働き方への悩みは経営者をはじめ全ての人が抱えている。もし、長時間労働をしないで売り上げを伸ばし続け、さらに子どもを何人産んでも働き続けられる環境が整った企業があるとしたら、その秘密が気にならない人はいないだろう。

著者は元々、「残業しない社員はいらない」と思っていた超ブラック企業の女性取締役だった。本書では、ブラック企業時代に直面した課題や、独立後、ほぼ残業ゼロで売上を上げ続ける組織を実現した「3つのこだわり」と「7つの働き方革命」など、超ホワイト企業ができるまでを分かりやすく紹介している。

また、「〝17時に帰っていいよ〟制度」「選べる時間休」「PCメガネ支給」「無農薬野菜支給」「病児シッター制度」など、実際に社内で取り組んでいる福利厚生制度を要所で具体的に紹介しているため、事例集としても参考になる一冊となっている。

最終章では、女性社員が多い会社だからこそ見えてきた、真の「女性活用」の考えも明かしている。きっと新しい働き方のヒントが見つかるだろう。

ほとんどの社員が17時に帰る 10年連続右肩上がりの会社

●岩崎裕美子（株式会社ランクアップ代表取締役）／クロスメディア・パブリッシング／1480円＋税／2016年1月